

令和6年度 第2回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時：令和7年2月25日（火）13:30～14:45

場 所：かが交流プラザさくら 202会議室

出席委員：橋本委員、光谷委員、山村委員、森澤委員、北井委員、木戸口委員、藪下委員、川向委員、後出委員

欠席委員：新澤委員、下中委員、藤川委員、辻井委員、谷本委員、佐藤委員

（委員15名中9名の参加により過半数に達しており、健康福祉審議会の規定数に達しているため会議は成立）

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ 北口市民健康部長
- 3 委員の紹介

4 議題

議事進行：北井会長

（1）令和6年度及び令和7年度の主な取組について

①健康増進事業について 資料1参照

質疑応答

山村副会長：特定健診受診率について、我々も受診勧奨をしている中で若い方は「受診できる日がない。」と言う方が多い。集団健診は地区で年に1回しかなく、「他の地区に行っても受診はできない。」や「他の地区でいつ健診があるか知らない。」と言う方が多い。集団健診は時間的にも短く、さらに平日しかないというイメージが強い。だから、スケジュールとそれぞれの地区でのやり方について考えていただきたい。

北井会長：地区では健診を何回実施しているか。

事務局：各地区年1回でそれ以外にも集団健診としてかが交流プラザさくらでも実施している。さくらでは年10回程度実施。

北井会長：さくらに来るまでが大変だと思う。

山村副会長：高齢者にとっては地区の健診日を逃すと、さくらまで行けない方が多い。

事務局：地域の方と健康づくり推進員のご意見を踏まえ、地域に合わせた方法を検討したい。

後出委員：KAGA 健幸ポイントヘルスケアアプリについて、登録者の地域差があると聞いたので、さらに啓発を強化していけたらよいのではないかと。山代地区健康づくり推進員の活動では、大きな仕事の1つとして拡げていこうと考えている。

事務局：令和7年度は加賀温泉郷ウォークが開催予定で、そういったイベントで歩きを

通して新規登録を呼びかけたい。また、広報でも周知している。

北井会長：事業開始当時は景品がよく当選したが、今はなかなか当選しない。月に何人くらい当選するのか。

事務局：月によって変動するが、200人など。

北井会長：月に1,000ポイント到達する人が1,200名ならば5回に1回当選するという。そういう情報を発信してもよいと思う。

事務局：参加されようと思う方に響くようなフレーズや呼びかけをしていきたい。

森澤委員：紙のKAGA健康ポイントカードをしている人からは、「アプリが出てきてからカードの景品に全く当選しなくなった。」との声を聞く。アプリとの兼ね合いはどうなっているか。

事務局：カードの人には、10枚以上貯めた人への表彰とタオルなどの粗品の贈呈をしている。当選しないということについては、たまたまの抽選結果という形。カード事業について縮小はしているが、廃止はしていない。

北井会長：予算は減っていないか。

事務局：カードについての予算は減っていない。

北井会長：特定健診受診率について、県内最下位を脱したということだが、県内最下位はどこだったのか。

事務局：能登町です。

北井会長：地震の関係を踏まえると、加賀市は依然危ない数字ということである。

山村副会長：令和7年度にKAGA健康フェスタを開催予定とのことだが、小学生に対し、ポスター募集の計画があるならば、テーマを教えてください。

事務局：来年度、ポスター募集の予定はない。

②予防接種事業について 資料2参照

③予防接種事業について（追加） 資料3参照

質疑応答

後出委員：带状疱疹ワクチンの対象年齢について、5歳刻みは制度上仕方がないかもしれないが、団塊世代が対象外になっているので、市の補助も含めて工夫できないか。

事務局：対象年齢については、国の方針を基にしている。自費接種の場合は定期接種の対象外となるので、対象年齢まで待っていただきたい。

北井会長：自費接種は市の7割補助の対象外ということか。

事務局：お見込みのとおり。ただし、抗体が少ないなどの医師の診断があれば申請によって、3割負担での接種が可能。

北井会長：肺炎球菌ワクチンも対象年齢が同じであったか。

事務局：お見込みのとおり。過去2回同じように5歳刻みでの定期接種の案内をした。

北井会長：制度として税金を使う以上、難しい部分があるということですか。

藪下委員：私の経験上、5年前に带状疱疹になった時の痛みが今も継続しているので、带状疱疹ワクチンを打ちたいと思っている。新聞では生ワクチンと組換えワクチンではかなり違いがあることを見たので、その違いの周知をしっかりとってほしい。

い。また、帯状疱疹は1回なるともう一生ならないという意見と何回もなるとい意見とどちらが正しいか。

橋本委員：1回なるともう一生ならないというのは間違いで、2回3回となっている人はいる。期間が短い間に複数回なる人は少なく、その場合は免疫異常である。

北井会長：接種勧奨の際に、実際に帯状疱疹になった人の生の声を話していただくと、私もという気持ちにさせることができるのでは。他に子宮頸がんワクチンの接種状況はどうか。

橋本委員：当院ではキャッチアップ対象者も相当数来院されている。

北井会長：接種者のうち20歳の人が少ないのではないか。成人式の時に啓発のチラシ配布などはどうか。

事務局：基本的には個別通知で案内している現状。成人式でのチラシ配布については、現在一切行っていないと確認している。

(2) その他

地域共生社会推進全国サミットについて（追加） 資料4参照

質疑応答

北井会長：我々が準備することはあるのか。

事務局：本番に向けて実行委員会を立ち上げ、各団体からご意見をいただいたりと、企画の段階から参画していただくことになると思うのでご協力をお願いしたい。

後出委員よりご意見

質疑応答

後出委員：健康寿命は平均自立期間であると思うが、加賀市の定義と国、県との定義が異なると聞いた。市民が誤解しないような表現にしてほしい。

北出会長：加賀市の健康寿命の定義は何か。

事務局：加賀市の定義は要介護2以上を受けていない人の年齢。国の場合は国の調査で健康か不健康かで調査した年齢。国は3年に1度の国民生活基礎調査にて、前述の質問項目で数字を算出しているが、無作為抽出で調査対象者数が少なく、算出できても県レベルの数字までしか算出できない。市町レベルで数字を算出するには、介護度でしか判断することができない。

北井会長：要介護2というと生活にかなり支障をきたしていると思われるがいかがか。

事務局：これは全国一律で定義として定められているが、ご指摘のとおり要介護2の状態をご存知の人はそう思われると思う。

後出委員：新聞で国、県の健康寿命が掲載されており、加賀市の健康寿命とは差があったので気になった。今後市民にとって分かりやすい表記をお願いしたい。

事務局：何を基準にした数字なのかを表記するようにしていきたい。

5 閉会